



のりくら としお
乗鞍 敏夫 准教授

博士・管理栄養士 兵庫県宝塚市出身

【担当科目】

基礎栄養学、基礎栄養学実験、食品学実験Ⅱ、食事摂取基準論、教職実践演習、総合演習、卒業研究、ほか

【主な研究】

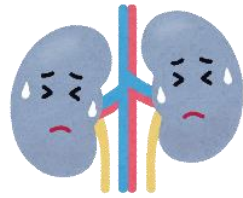
慢性腎臓病とサルコペニアの合併症におけるケト酸の生理作用の解明

慢性腎臓病の食事療法には、たんぱく質(アミノ酸)の摂取制限が推奨されています。一方で、サルコペニア(加齢や疾患にともなって生じる骨格筋量と骨格筋力の低下)には、たんぱく質(アミノ酸)の積極的な摂取が推奨されています。高齢者では、慢性腎臓病とサルコペニアの合併症が高頻度で見られますが、それぞれの食事療法(慢性腎臓病のたんぱく質の摂取制限 or サルコペニアの積極的なたんぱく質の摂取)が適用できません。

⇒ 栄養素の摂取バランスだけでは、解決が困難な課題である。

ケト酸(窒素を含まないアミノ酸代謝物)は、腎機能の低下によって体内に蓄積されやすい尿素や尿毒素(窒素を含む老廃物)を生じないため、腎機能障害の食事療法への活用が注目されていますが、いまだ実用化されていません。

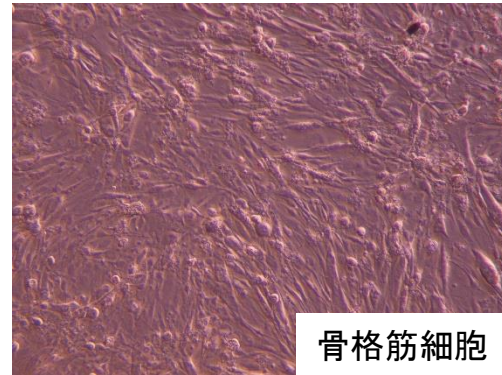
我々は、腎機能障害で血中濃度が増加する尿毒素が、骨格筋細胞の機能低下を引き起こすことを明らかにしており、この機能低下におけるケト酸の生理作用とその作用メカニズムの解明を行っています。



食品成分の運動模倣効果

運動は、骨格筋細胞のマイオカイン(myo=筋 kine=作動物質)分泌を介して、筋機能、骨形成、免疫機能、認知機能など全身の代謝を調節することが、近年注目されています。

我々は、運動と類似したマイオカイン分泌を促進する食(食品成分、栄養素)の機能およびその作用機序の解明を行っています。



骨格筋細胞

【高校生へのメッセージ】

管理栄養士の活躍の場は徐々にですが確実に広がってきています。

栄養と食の世界には、男性の感性も必要ですよ・・・(男性の管理栄養士も沢山活躍されています)。皆さんと一緒に、「夢をかなえるゾウ」。

【プロフィール】

1996年～2000年	大阪市立大学 生活科学部 食品栄養科学科
2000年～2002年	大阪市立大学大学院 生活科学研究科 前期博士課程(修士 生活科学)
2002年～2005年	食品会社(三栄源エフ・エフ・アイ)勤務
2005年～2008年	大阪市立大学大学院 生活科学研究科 後期博士課程(博士 生活科学)
2008年4月～	青森県立保健大学 健康科学部 栄養学科

【所属学会】

日本栄養改善学会、日本栄養食糧学会、日本農芸化学会

